

研究科プロジェクトの研究テーマ 公募のご案内

文学研究科と都市文化研究センターでは、2015年度より、文学研究院に所属する専任教員を代表研究者とする共同研究を推奨すべく、「研究科プロジェクト」を実施しています。

このたび、2021年度の研究科プロジェクトの研究テーマを下記の要領で募集いたします。研究テーマは、学内外の若手を含む複数名の研究者が学際的に共同で行うものであり、かつ人文学に関する実践的なテーマを求めています。今年度は、現在、研究科教授会で継続審議中の新大学および森之宮キャンパスにおける文学研究科の「新機軸」や新センター構想案（別紙参照）に関連して、その基幹となるプロジェクトとすることを旨とするものや、「都市文化研究」に代わる新たな共同研究理念を提案するものを、特に歓迎します。関連の先生方におかれましては、ふるってご応募くださいますよう、よろしく願いいたします。

なお、応募された研究テーマの中から複数の研究テーマを採択し、採択されたプロジェクトには研究資金を交付します。

2021年5月31日

大学院文学研究科長
添田 晴雄
都市文化研究センター所長
草生 久嗣

記

1. 募集テーマ

以下のテーマに関連する共同研究を公募します。

- 1) 人文学に関する学際的なテーマ
- 2) 新大学・森之宮キャンパスにおける文学研究科の「新機軸」や新センター構想案に関連したテーマ

2. 代表研究者の応募資格

2021年4月時点で文学研究院に所属する専任教員

3. 共同研究者の資格

- (1) 2021年4月時点で文学研究院に所属する専任教員・特任教員
- (2) 2021年4月時点で都市文化研究センター（UCRC）研究員の資格を有する者
- (3) 上記以外で、採択された「研究科プロジェクト」の遂行に資すると認められる者

* 研究テーマの応募時点で、原則として共同研究者を確定してください。

* 採択後、共同研究上の必要性に応じて、共同研究者の追加募集を行うことができます。

4. 応募に必要な書類

- (1) 申請書（様式1）

* 代表研究者が作成する。代表研究者、共同研究者（氏名・所属・職階、研究分野）、関連研究業績、プロジェクトの実施体制、研究計画、予算計画などを記載すること。

- (2) 履歴書（様式2）（「3. 共同研究者の資格」の（3）に該当する共同研究者のみ）

- (3) 研究業績（様式3）（「3. 共同研究者の資格」の（3）に該当する共同研究者のみ）

* （2）と（3）に関しては、UCRC研究員採用に際して用いている書式を使用すること。

5. 応募締め切りと提出方法

締め切り **2021年6月30日(水) 17:00** 必着

提出方法 都市文化研究センター事務局 (大阪市立大学文学部棟2階「情報編集室」)

メールアドレス ucrc_office@lit.osaka-cu.ac.jp

添付ファイルにてメール送信

*メール送信の場合は、必ず事務局からの受信確認メール(7月1日までに返信)を確認のこと。

6. 募集件数と選考方法

- ・研究期間：1年(2020年度の研究課題の継続申請は不可)
*ただし、2022年度の募集に際して、21年度の成果をふまえ、課題継続を認める場合がある。
- ・書類審査により、研究科三役とUCRC運営委員会による選考委員会が選考を行う。
- ・採否は、審議後すみやかに代表研究者に通知する。
- ・応募数などを考慮して、採択件数や研究費の交付金額を調整する場合がある。

7. 代表研究者の義務など

- ・代表研究者には、年度末に「研究実績報告書」を提出することが義務付けられる。

8. 共同研究者の権利や義務など

- ・共同研究者のうち、「3. 共同研究員の資格」の(1)以外のものは、UCRC特別研究員となる。
- ・UCRC特別研究員の任期は2021年度限りとする。
- ・UCRC特別研究員には、年度末に「研究実績報告書」を提出することが義務付けられる。
- ・UCRC特別研究員として採択された者は、採択後、本学が指定するコンプライアンス教育・研究倫理教育を受講することが義務付けられる。

9. 問い合わせ

大阪市立大学文学研究院 都市文化研究センター事務局

住所：〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 文学部棟2階 情報編集室

メールアドレス：ucrc_office@lit.osaka-cu.ac.jp

電話番号：06-6605-3114

*お問い合わせはメールにてお願いします。

以上

新大学における文学研究科の「新機軸」・新センター構想案の具体化指針(改訂案)

将来構想委員会

4月のUCRC運営委員会・将来構想委員会・教授会での議論、4月26日の将来構想委員会WG準備会合とその後のメールによるやり取り、さらには5月14日の将来構想委員会、UCRC運営委員会をふまえて、文学研究科の「新機軸」と都市文化研究センター(UCRC)の再編構想案の具体化に関する指針、また2021年度の研究科プロジェクトの進め方については、以下のように再提案したい。

1. 「新機軸」・新センター構想案の考え方

- ①新センター構想案で展開する複数のプロジェクトについては、あらかじめ4テーマを提示するような形(4月教授会で提案した当初案の骨子は別紙を参照)は採らず、このかんWGで提案のあったセンターの理念を短いワードで示すための「タグ」(現在の「都市文化研究」に代わるような抽象度の高いものが望ましい)を当面、いくつか例示し、可能な限り、これに関わるプロジェクトを研究科教員から、研究科プロジェクトとして公募し、予算を配分して進めるなかで、煮詰めていく。その上で今後、その進展や成果をにらみながら、センターとしてのタグの集約、プロジェクトの絞り込み、さらにその成果の宣伝・普及を進める。
 - *タグの例(WG準備会合で出されたものの一部)
 - 「デジタル・ヒューマニティーズ」/「ポストヒューマンの人文学」/「ディスタンスカルチャー」/「集合的記憶と資料」/「トランスナショナルな社会」/「多様性(ダイバーシティ)と文化接触」など
- ②上記の公募に対して、研究科内の複数の教員や若手研究者が参加できる新たなプロジェクトを自由に考案し、応募するのも歓迎するし、その中に、当初案に示した「大阪の歴史・文化研究」「複言語・複文化研究」「都市文化創造開発研究」やそれに類似・関連するプロジェクトの応募があるのも歓迎する(ただし、後者をあらかじめ優遇することはしない)。なお、上記のタグは例示であり、プロジェクトを通じた新たな「タグ」の提案も可能とする。
- ③「人文データリサーチ」については、研究科全体として新センター構想案に欠かせない機能(研究テーマではなく)の一つと位置づけ、実際に出揃ったプロジェクト群と連携して、数年にわたりセンターと各プロジェクトの成果を人文・社会系データベースあるいはデジタルアーカイブなどとして発信するための事業として推進することを検討する。
- ④WG準備会合で議論になったUCRC研究員制度については、引き続き、新大学における研究科とUCRCの位置づけも想定しつつ、「プロジェクトベース化の徹底」と「自由な個人研究・共同研究の保障」の関係について、UCRCと将来委員会で議論を継続する。

2. 2021年度研究科プロジェクト等の進め方

- ⑤上記1の方針をふまえ、本日の5月教授会で研究科プロジェクトの進め方に関する基本方針について合意が得られれば、その具体的な進め方は、UCRCと三役で調整して、5月下旬を目途に2021年度の研究科プロジェクトの募集を開始すべく準備する。
 - *その際、研究計画書等で求める「作文」については負担軽減に配慮するが、既存のプロジェクト申請の書式を基本とする。
- ⑥③に触れた「人文データリサーチ」機能構築事業については、第一次募集で出揃ったプロジェクト群の予算総額が原資を超えない場合は、その残額を用いて2021年度に事業を試行する(超えた場合は別途、財源を検討する)。試行の結果、有意な成果が得られれば、継続的な事業成果の検証を条件として、2025年度までに成果を蓄積して、同年度に新成果として発信すべく、事業を継続していくことを念頭に置く。
- ⑦UCRC若手研究プロジェクトは、当面、新センター構想案とは切り離して、例年どおりUCRCの判断で募集等を進めてもらう(ただし、結果として新センター構想案と理念・内容において関連するものは歓迎したい)。

3. その他

- *なお、上記の議論とは別に、このかん新大学の2022年度予算のうち特任教員・アルバイト等について、新規採用や変更がある場合は、理由を添えて提出するようことの照会があったため、別紙のような理由書(別紙は省略)を提出し、UCRCの特任助教1名・アルバイト2名の体制を、特任講師3名・アルバイト4名に増員し、勤務時間も増加する新規採用・改定案を要求した。
- *将来構想委員会WGは、準備会合メンバーを構成員として、引き続き、自由な討議を含めた新機軸と新センター構想案をめぐる議論の場として活動を継続する。
- *研究科教授会の場合などを活用して、研究科内の個人研究、外部資金による共同研究などの紹介とシーズ探索・マッチングの試みも開始し、可能であればリニューアル版「文学カフェ」の開始も検討を継続する。